



京都府京丹後市

京丹後市峰山町杉谷691
 担当課：健康長寿福祉部健康推進課
 〒627-0012
 ☎0772-69-0350 FAX0772-62-1156
<http://www.city.kyotango.lg.jp/>
 Eメール：kenkosuishin@city.kyotango.lg.jp

本市のデータ

(1)面積 501.85km² (平27.3.1)

(2)人口 (人)

35国調	12国調	17国調	22国調	平27.5.31住基
80,106	65,578	62,723	59,038	57,988
65歳以上人口比率(22国調)				30.9%

(3)世帯数

35国調	12国調	17国調	22国調	平27.5.31住基
17,087	20,495	20,968	20,690	22,394

(4)沿革

平成16年4月1日合併(市制施行)
 峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町

(5)産業構造

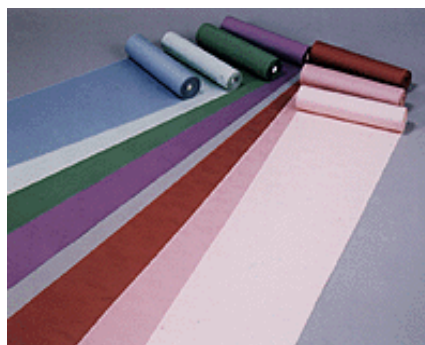
区分	就業人口 45国調	就業人口 17国調	就業人口 22国調
1次	12,286人 27.5%	3,622人 10.9%	2,714人 9.5%
2次	20,502人 45.9%	11,891人 35.9%	9,215人 32.1%
3次	11,896人 26.6%	17,473人 52.8%	16,745人 58.4%
計	44,697人	33,111人	29,717人



本市の概要

京丹後市は、海岸全体が山陰海岸国立公園と丹後天橋立大江山国定公園の二つの自然公園に認定された風光明媚な地域である。ブランド化されつつある間人ガニ、久美浜湾の牡蠣、三年連続食味特Aの丹後のコシヒカリなどの農林水産物、産業には日本一の生産量を誇る丹後ちりめん、古代ものづくりのふるさとに起源する機械金属生産など先人たちが残してくれた自然環境・遺産や歴史・文化など新しい時代に求められる魅力、宝をふんだんに有している。

特に観光面においては、平成22年10月4日に科学的に見て特別に重要で、美しい地質遺産を持つ自然公園であるという「山陰海岸ジオパーク」として兵庫県・鳥取県とともに「世界ジオパークネットワーク」に認定を受けたところであり、それを観光に生かすべく様々な取り組みを推進することとしている。



支援に向けての取り組み状況

<対策の方針・目標>

京丹後市では、平成26年3月に「京丹後市自殺のないまちづくり行動計画」を策定し、「誰一人置き去りにしない、いのちが一番大切にされる、生き心地の良い『いのちを護る』まちづくり」を基本理念に設定しました。

自殺に追い込まれるという危機は「誰にでも起こり得る危機」ですが、誰かに援助を求めることができず、様々な要因を抱えながら支援に辿り着けずにいる人たちと同じ側に寄り添い、生きることの阻害要因を一つずつ丁寧に取り除くため、関係機関・団体と連携・協働して「包括的な生きる支援」に取り組んでいます。

また、「市民みんなでのちに向きあうゲートキーパー推進計画」を実施し、5年間で5,000人のゲートキーパー養成に取り組んでいます。

<具体的な取組み>

1. 総合的な取組の推進及び関係機関との連携【平成18年11月22日～】

- (1)京丹後市自殺ゼロ実現推進協議会の設立（構成：16団体、参与：京都いのちの電話）
- (2)京丹後市自殺ゼロ実現連絡会議の設置（構成：庁内13部署）



2. 専門相談体制

- (1)平成19年4月～「多重債務相談・支援室」を設置（市の専任職員を配置）
債務整理から生活再建まで専任職員が弁護士等と連携して対応、相談料無料
- (2)平成22年10月～臨床心理士による「こころの健康相談」
うつ、メンタル問題を抱える市民のための無料カウンセリングを実施
- (3)平成23年4月～「パーソナルサポートセンター」（「くらし」と「しごと」の寄り添い支援センター）を開設
生活困窮者等に就労や社会参加の機会を作るため、制度横断的に問題対応の実施
- (4)平成25年8月～「寄り添い支援総合サポートセンター」を開設
「『くらし』と『しごと』の寄り添い支援センター」内に、「市民相談室」、「多重債務相談・支援室」、「消費生活センター」を移転し、相談から支援までをワンストップで行う体制を整備
- (5)平成25年11月26日（火）「くらしといのちの総合相談会」を初めて実施
- (6)平成26年度～「くらしといのちの総合相談会」を年4回実施（別枠として、「年末相談会」も開催）

3. 電話相談：京丹後市自殺予防フリーアクセス（市民専用通話無料／通話料金は市負担）

- (1)平成20年4月～
 - ①「いのち」（京都いのちの電話）・・・平成26年度実績：153件の相談
 - ②「はなし」（京都府精神保健福祉総合センター）・・・平成26年度実績：446件の相談

4. うつ病対策・こころの健康対策【健康教育、出前講座】

- (1)平成20年1月～うつ予防紙芝居「こころの風邪」
- (2)平成20年4月～こころの健康づくり「こころの健康塾」
- (3)平成21年 総合検診結果報告会「こころの健康」（集団健康教育）
- (4)平成24年12月 保健師などが睡眠健康指導士の資格を取得
- (5)平成25年4月～こころの健康づくりに「こころの健康塾（睡眠）」を追加
- (6)平成26年度～保健師が講師を務める「ゲートキーパー養成講座」を追加
※延実施回数：327回、参加延人数：6,322人



5. 講演会・こころの健康相談会

- (1)平成19年度 「“自殺予防”～いま私たちにできること～」（NPO法人ライフリンク代表 清水康之氏 他）
- (2)平成22年度 「うつ病の理解と対応」（京都府精神保健福祉総合センター所長）：参加 128人
- (3)平成23年度 「笑顔と笑いでストレス社会を生きぬこう」（精神科医 北畑英樹氏）：参加 157人
- (4)平成24年度 「笑いは心と脳の処方せん」（産婦人科医 昇 幹夫氏）：参加 172人
- (5)平成25年度 「人を幸せにする言葉の力」（作家・教育評論家 中井俊巳氏）：参加 73人
- (6)平成26年度 「元気なこころの育て方～いきいきと生活するための認知行動療法～」
（関西福祉科学大学 社会福祉学部 臨床心理学科 三田村仰氏）：参加100人
- (7)平成27年度 「こころの健康について考えよう～あなたが大切な人にできる5つのこと～」
（株）ありがトン 代表 自己感謝スキルトレーナー 澤登和夫氏【予定】

6. ゲートキーパー研修

◆市独自の呼び名「こころ・いのち・つなぐ手研修会」として実施（「こころ・いのち・つなぐ手帳」を配付）

- (1)平成23年度 3回実施（関西国際大学人間科学部 教授 渡邊直樹氏）：参加延人数130人
- (2)平成24年度 2回実施（京都文教大学臨床心理学部 講師 松田美枝氏）：参加延人数99人
- (3)平成25年度 2回実施（京都文教大学臨床心理学部 講師 松田美枝氏）：参加延人数100人
※市職員全員ゲートキーパー養成研修を実施（年間11回開催し、880人が受講）
- (4)平成26年度 4回実施（初級編2回、中級編2回）

（京都府丹後保健所精神保健福祉相談員／京都いのちの電話）：参加延人数198人

★市保健師がゲートキーパー養成講座の指導者になるための研修を、年2回実施：受講者16人

（京都府健康福祉部福祉・援護課／京都府精神保健福祉総合センター）

7. こころの健診（うつスクリーニング）

- (1)平成26年度～ 総合検診結果報告会において、うつ病やこころの病気に関する一次スクリーニングを実施し、チェック票の結果に基づき、同意を得た市民を対象に二次スクリーニングを実施。
こころの質問票に基づく聞き取り及びこころの健康に対する支援を行う。ハイリスク者には、電話・訪問・関係機関との連携などの事後支援に取り組む。

8. 傾聴講座

- (1)平成21年度～ 講師：京都いのちの電話 ※現在まで約340人が受講

9. いのちとこころの学校予防教育

- (1)最先端の心理学、脳科学に基づき、自律性・対人関係性の修得を最終目標とし、生徒（小学3年～中学1年、2校時～160校時）が熱心に楽しく学べるプログラム
（市内小学校6年生を対象に模擬授業を実施）